

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2021年1月21日 木曜日

リモート・データへのアクセス (2) - REST対応SQL

[こちらの記事](#)からの継続です。リモートのAutonomous Databaseに、REST対応SQLによってアクセスするOracle APEXのアプリケーションを作成します。

アプリケーション名を**リモート・アクセス**とした、空っぽのアプリケーションを作成しておきます。**アプリケーション・ビルダー**の作成から、**新規アプリケーションの作成**を実行し、**名前だけ**を設定し、それ以外は設定を行わずに**アプリケーションの作成**を実行します。

この状態から作業の説明を始めます。

Web資格証明の登録

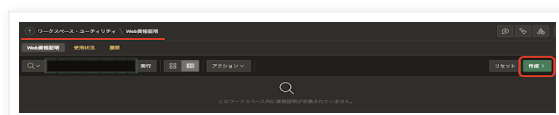
先の記事で作成したOAuthクライアントを、Web資格証明として登録します。作成したアプリケーションの**共有コンポーネント**を開きます。



セキュリティに含まれる**Web資格証明**を開きます。



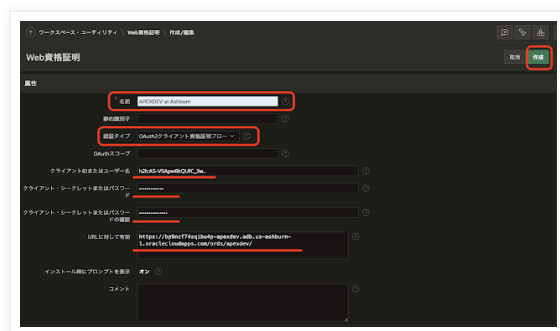
作成をクリックして、Web資格証明の登録を行います。



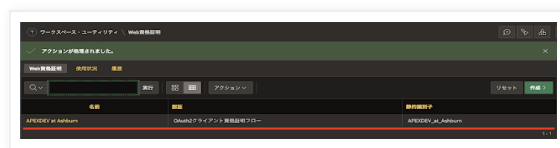
今回はアプリケーションの共有コンポーネントからWeb資格証明のページを開きました。実際には、Web資格証明は**ワークスペース・ユーティリティ**に含まれています。そのため、ここで作成したWeb資格証明は、同じワークスペースの他のアプリケーションからも利用することができます。

Web資格証明として、**名前**を設定し(デフォルトでは静的識別子が名前より導出されるため、英数字の利用に限定してください)、**認証タイプ**として**OAuth2クライアント資格証明フロー**を選択します。**クライアントID**または**ユーザー名**、**クライアント・シークレット**または**パスワード**(と確認)、**URLに対して有効**については、前回の記事で作成したOAuthクライアントの**目のアイコン**をクリックして表示される情報と、**Autonomous DatabaseのURL**(OAuthクライアントはスキーマAPEXDEVに登録されているので、URLの末尾はスキーマ別名まで含めます)を指定します。

それぞれ設定し、**作成**をクリックします。

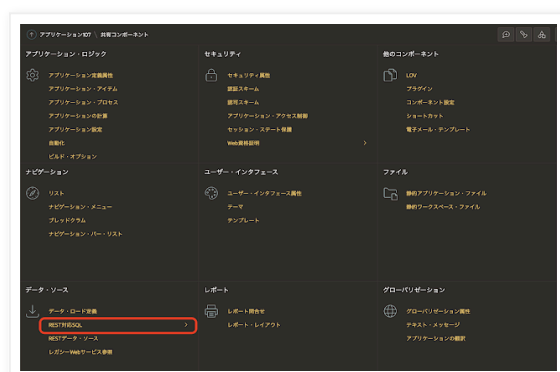


Web資格証明が登録されたことを確認します。



REST対応SQLの登録

アプリケーションの**共有コンポーネント**に戻り、**データ・ソース**に含まれる**REST対応SQL**を開きます。



REST対応SQLの定義も実際には**ワークスペース・ユーティリティ**に含まれているので、ここでの定義は同じワークスペースに作成されているアプリケーションから利用できます。

作成をクリックします。

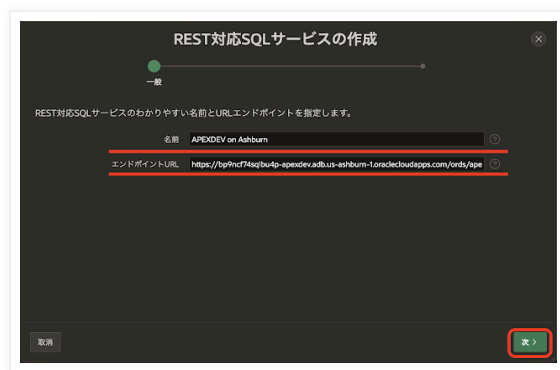


名前とエンドポイントURLを指定します。**名前**は任意です。**エンドポイントURL**は今回はアクセス先の**Autonomous DatabaseのURL**です。URLの末尾は、スキーマAPEXDEVをREST対応ユーザーとして有効化する際に指定した**スキーマ別名**になります。以下の形式になります。

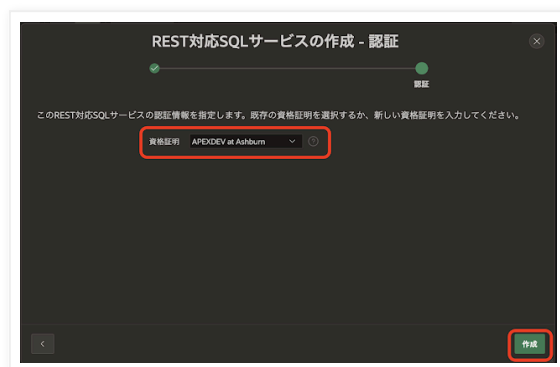
https://Autonomous Databaseのホスト.oraclecloudapps.com/ords/**スキーマ別名**/

Autonomous Database以外でも、末尾はスキーマ別名になります。

次に進みます。



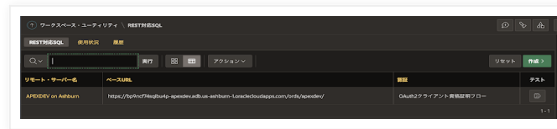
資格証明として先ほど登録した**Web資格証明**を選択します。今回の例ではAPEXDEV at AshburnとしてWeb資格証明を登録しているので、それを選択しています。その後、**作成**をクリックします。



REST対応SQLが作成され、接続**テスト**も続いて行われます。エラーが発生せず、**REST対応SQLサービスが作成されました。**と表示されれば成功です。ウィンドウを閉じます。



REST対応SQLが新たに登録されていることを確認します。**テスト**のボタンがありますが、これは上記のテストの再実行になるので、繰り返し行う必要はありません。



REST対応SQLによる対話グリッドの作成

アプリケーションに対話グリッドのページを作成します。**アプリケーション・ビルダー**を開いて、**ページの作成**をクリックし、ページ作成ウィザードを開始します。



コンポーネントのフォームをクリックします。



編集可能対話グリッドをクリックします。



ページ名をREST対応SQLとします。次に進みます。



ナビゲーションのプリファレンスとして、**新規ナビゲーション・メニュー・エントリ**の作成を選択します。**新規ナビゲーション・メニュー・エントリ**として、ページ名である**REST対応SQL**がデフォルトになります。そのまま変更せず、**次**へ進みます。



データ・ソースの設定を行います。**REST対応SQLサービス**を選択します。**REST対応SQLサービス**として、登録済みのサービスを選択します。今回はAPEXDEV on Ashburnです。**ソース・タイプ**として**表**を選択し、**表/ビューの名前**として**EMP**を選択します。**主キー列**に**EMPNO (Number)**を選択し、**作成**を実行します。

主キー列はウィンドウからはみ出ている場合があるので、ウィンドウを拡大するかスクロールするかして表示させてから、設定します。デフォルトはROWIDなので、レポートの表示列が変わってしまいます。



ページが作成されるとページ・デザイナーが開きます。作成されたリージョンの**ソース**の定義を確認します。**REST対応SQL**がソースのときは、**リモート・キャッシュ**の機能が追加されます。**リモート・キャッシュ**については、**オンライン・ヘルプ**を参照してください。

作成されたページを**実行**し、動作を確認します。

Powered by [Blogger](#).